

## ED 揺らぐ福祉社会の中で利用者中心の福祉サービスを考える

松田 亮三

医療・介護政策がどのような文脈で、どういう制度のもとで展開されているのか、を検討し、よりよい議論の仕方を考えています。また日英の医療・福祉制度を比較検討する研究を行っています。医療や介護を考えることは、生と死、老いと誕生、経済や法、いろいろな問題に関わってきますので、大変幅広い議論に関わることになりますので、幅広く研究をすすめています。

個人ウェブ <http://cli.gs/ihpo>。

### 1. 専門演習の目標

揺らぐ福祉社会の中で「利用者中心の福祉サービス」にこだわって考え、調べ、議論し、自らの意見を構築することを通して、今の社会を見つめ、これからの社会を展望する視点をみにつける。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

揺れ動く日本社会の中で、福祉や医療の現場における利用者中心の福祉サービスとは何か、それを実現していくためには何が必要かを考えていきます。その際、利用者の思い、事業者の状況、介護保険など関連する制度、福祉多元主義などの理論をふまえながら、総合的に考えていきます。3回生では、まず集中的に文献を読み込んだ上で、45名のグループで限界のある制度のもとでのサービスのあり方を、焦点を絞って研究していきます。卒業研究では各人が幅広いテーマで研究活動をしていただきます。

具体的に研究するサービスはあらかじめ限定しておりません。ただ、グループ研究の際には、介護、障害者福祉、医療などの中から、学生間の話し合いの上で絞り込んでいくことになるでしょう。

### 3. 授業の進め方・内容

ゼミ運営のモットーは、お互いの尊重、率直で真面目な話し合い、臨機応変、です。

3回生前期—利用者の思い、福祉制度、事業所の状況、関連する理論などを学び、現場からゲスト・スピーカーを招き、「利用者中心の福祉サービス」についての理解を深めます。同時に、全体で取り組む共通テーマを決めていきます。ゼミでの議論をもとに、夏期休暇中に、福祉（ないし医療）施設調査を実施します。

3回生後期—共通テーマを研究します。それぞれの「回答」を用意することで、テーマを深く理解するようにします。研究テーマにそって必要な文献研究やフィールド・ワークを行い

ます。ゼミ大会の報告・報告書の作成等により、一段とレベルの高い研究発表の仕方を身につけます。

4回生前期—それぞれのテーマに関する文献を読んで議論しつつ、卒業研究の構想を報告し、その骨格を固めます。就職活動等の交流も行っています。

4回生後期—個別報告と指導・助言を行い、卒業研究を完成していきます。

### 4. 必要とする知識

福祉や医療といった対人サービスに関する講義を受講し、本を読んでおくとい良いでしょう。

### 5. 関連する分野・科目・知識

社会保障論、福祉行財政論、障害者・高齢者・児童福祉などの制度とサービス提供に関する事項、市民参加、などです。

### 6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

なるべく新しいテキストを使いたいため授業で指定します。参考としては、2010年度は『ケアを支える仕組み』『ケアを实践するしかけ』『ケアをすること』（いずれも岩波書店）などに掲載されている論文をみんなで読みました。

### 7. 独自に付加する選考方法

特になし。

### 8. 受講生に望むこと

仮に自らが施設の運営に関わるとすればどうすればよいか、という視点で積極的に考えてみましょう。ゼミの時間以外にもフィールドワークやグループ内の打ち合わせを行うこともありますので、自主的な学習時間を確保しておきましょう。